

ユーザーエージェントでの切り替えはクローキングと見なされないように注意

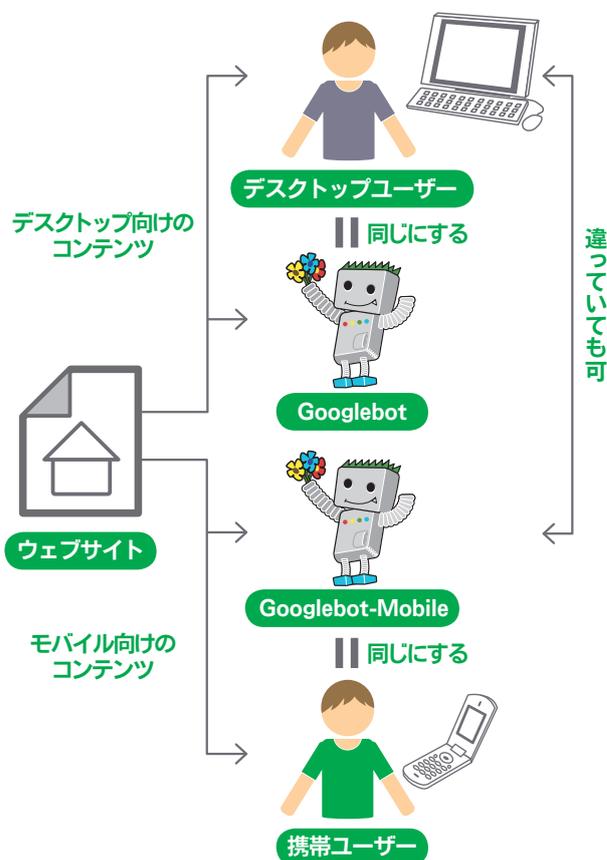
さまざまな事情や歴史的な経緯によって、同じURLでフォーマットやコンテンツをユーザーエージェントによって切り替える方式を実施しているサイトがあります。つまり、**実際にアクセスするURLは同じですが、ユーザーエージェントの情報に基づいて、デスクトップから閲覧した場合と携帯電話から閲覧した場合で表示するフォーマットを変える**という手法です^②。

この場合、どちらの検索結果でも同じURLが表示され、デスクトップからアクセスすればデスクトップ版のコンテンツが、携帯電話からはモバイル版のコンテンツが閲覧できます。ただし、クローラーに返すコンテンツの設定を誤ると、場合によってはサイトの偽装、いわゆる「クローキング」と見なされることがあるのでご注意ください。

クローキングとは、Googlebotに対して通常のユーザーと異なるコンテンツを見せることで、検索結果のランク付けを高めようとする行為のことで、実際にはユーザーが閲覧するコンテンツにはないキーワードで検索結果に表示されるなどの不便を生じるため、クローキングに対しては、厳しい対処が取られます。

では、同じURLでモバイル版とデスクトップ版を提供する場合、「ユーザーが閲覧するコンテンツ」とはどちらのことなのでしょうか？ 25ページでも説明したように、**Googleではウェブ検索用のGooglebotとモバイル検索用のGooglebot-Mobileというクローラーを使っています。ですから、Googlebotにはデスクトップのブラウザと同じコンテンツを、Googlebot-Mobileには携帯電話のブラウザと同じコンテンツを返してください。**

もちろんこの場合、GooglebotとGooglebot-Mobileで受け取るコンテンツが違っていても問題ありません。しかし、サイト管理者の意図と反してクローキングと認識される可能性のあるパターンとして、デスクトップからのアクセスは「携帯電話からアクセスしてください」と説明するページを返しているのに、GooglebotとGooglebot-Mobileを区別せず扱っているために、Googlebotからはモバイル版のコンテンツが見えてしまっている、というケースには注意が必要です。この場合、実際にデスクトップユーザーが閲覧するコンテンツとGooglebotが受け取るコンテンツが異なるため、クローキングと判断されてしまう可能性があります。



②URLは同じで、ユーザーエージェントの情報に基づいて、デスクトップから閲覧した場合と携帯電話から閲覧した場合で表示するフォーマットを変える例。このとき、デスクトップユーザーとGooglebot、携帯ユーザーとGooglebot-Mobileには、同じコンテンツを返すようにします

ユーザーを
使用している端末に合った
サイトへちゃんと
誘導してあげてね!

